

京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針について

京都市教育委員会
京都市文化市民局

令和7年7月25日（金）



本日の内容

- 1 はじめに
- 2 京都市のこれまでの取組
- 3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容
- 4 市民意見募集結果及び今後の予定

本日の配布資料

- ・ パワーポイント資料
- ・ 冊子
- ・ 概要版（中学生以上）
- ・ 子ども版（小学生対象）

あらゆる場で
是非活用を！

1 はじめに

庁内組織「部活動の地域移行に向けた推進チーム」 (令和4年11月～)

副市長（リーダー）



教育委員会

文化市民局

総合企画局

子ども若者
はぐくみ局

区役所

学校教育
生涯学習

スポーツ・
文化芸術振興

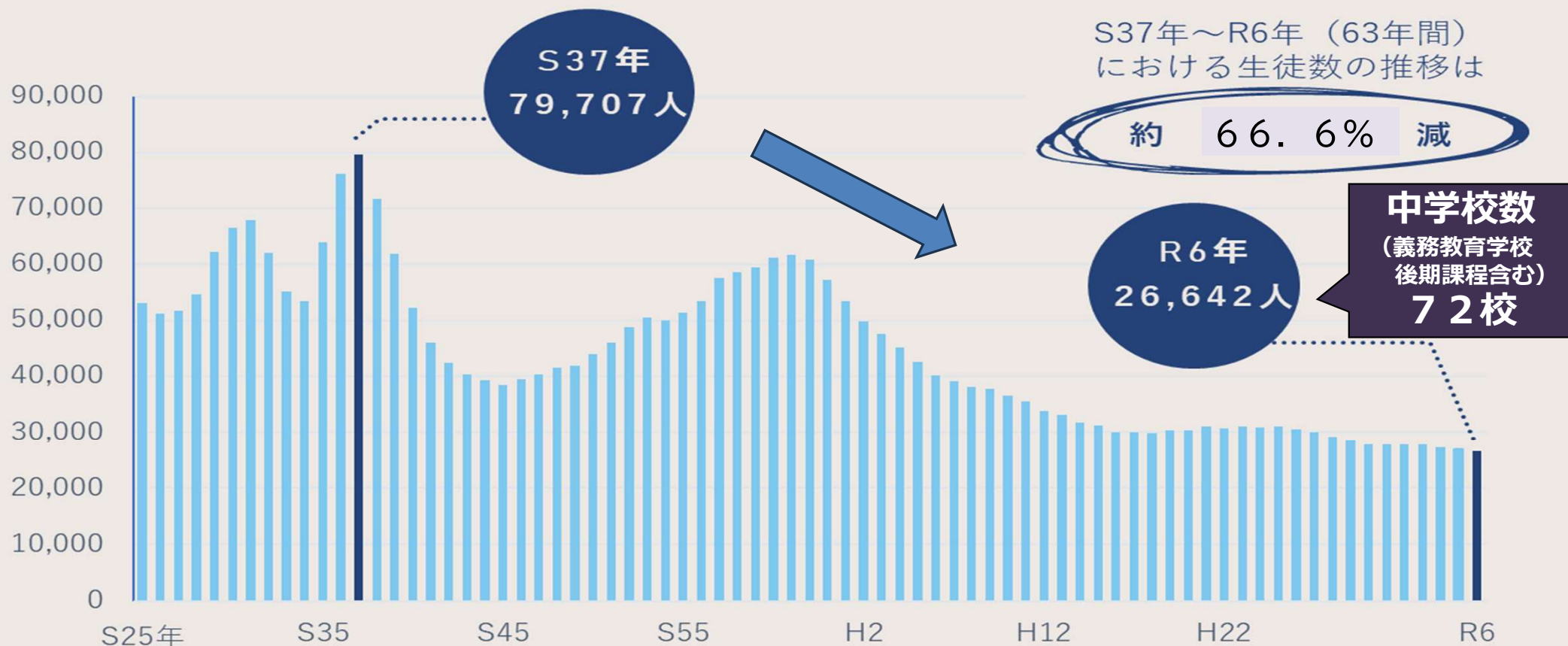
大学連携

子育て
環境充実

地域コミュニ
ティ活性化

1 はじめに

京都市立中学校 生徒数の推移



1 はじめに

中学校の生徒数と運動部活動数の推移

平成4年（1992）→令和6年（2024）

生徒数：40%減 運動部数：25%減



年度	生徒数 (人)	運動部数 (部)	文化部数 (部)	運動部＋文化部 加入率 (%)
平成4	45,138	1,066	—	—
平成14	31,818	874	—	—
平成24	30,944	830	293	84.8
令和6	26,642	792	253	80.5

約30年間で

40%減

25%減

1 はじめに

令和6年度中学校部活動数

※男女別の部は、男女別でカウントして集計

	部数	指導者	加入生徒数	加入率
運動部	792部	1,390名	15,492名	58.1%
文化部	253部	526名	5,973名	22.4%

No.	部活動名	部数	No.	部活動名	部数
1	陸上	110	11	柔道	24
2	バスケットボール	106	12	ラグビー	17
3	バレーボール	84	13	ハンドボール	17
4	ソフトテニス	82	14	ワングル	10
5	卓球	81	15	ソフトボール	9
6	野球	65	16	体操	5
7	サッカー	64	17	相撲	3
8	剣道	48	18	テニス	2
9	水泳	34	19	ダンス等	3
10	バドミントン	28		部数	792



1 はじめに

令和6年度中学校部活動数

※男女別の部は、男女別でカウントして集計

	部数	指導者	加入生徒数	加入率
運動部	792部	1,390名	15,492名	58.1%
文化部	253部	526名	5,973名	22.4%

No.	部活動名	部数	No.	部活動名	部数
1	美術・工芸	64	10	演劇	3
2	吹奏楽	62	10	総合文化	3
3	家庭科	23	13	軽音楽	2
4	自然科学、科学技術	21	13	文芸	2
5	パソコン	18	13	ボランティア	2
5	放送	18	16	将棋	1
7	園芸	11	16	華道	1
8	茶道	6	16	日本音楽	1
9	伝統文化	4	16	その他	3
10	合唱・コーラス・和太鼓等	3		部数	253



1 はじめに

令和6年度の部活動の現状

第74回京都市中学校野球秋季大会（R6）

【出場校】

市立中学校 57校

・ 単独チーム 41校

・ 合同チーム 16校 全体の約 3割



1 はじめに

推進方針策定の背景

少子化の進展

働き方改革

- 生徒の希望する部が学校にない、団体種目等では実戦的な活動ができない。
- 民間のクラブチーム等でも、校区でチームを組むことが難しくなり、かつ活動場所も課題に。
- 学校部活動は教員の長時間勤務の大きな要因の一つで、かつ専門的に指導できる教員も限られている。など

1 はじめに

推進方針策定の背景

- 最近、「**部活動地域展開（移行）**」という言葉が使われているが、部活動をめぐる課題は以前からあった。
- 京都市では、**生徒ニーズに即した対応と、教員の働き方改革**の両輪で、部活動改革の取組を進めてきた。



【取組例】

「**合同部活動**」（H11～）

「**ブロック内選択制**」（H13～自校に部がなくても他校の部に参加可）

「**外部コーチ**」（S58～）及び「**部活動指導員**」（H29～）配置

2 京都市のこれまでの取組

国方針（令和2年9月）以降

- ・ **まずは休日**における取組からモデル校を指定して「実践研究」として取組を開始。
- ・ 専門的指導者がいない学校、希望する学校から。
- ・ R5～7年度を国同様に **「改革推進期間」**と位置付け。

令和3
1校2部

令和4
10校17部

令和5
16校28部

令和6
26校58部

数の多い、運動部の取組を先行（上記は全て運動部）

2 京都市のこれまでの取組

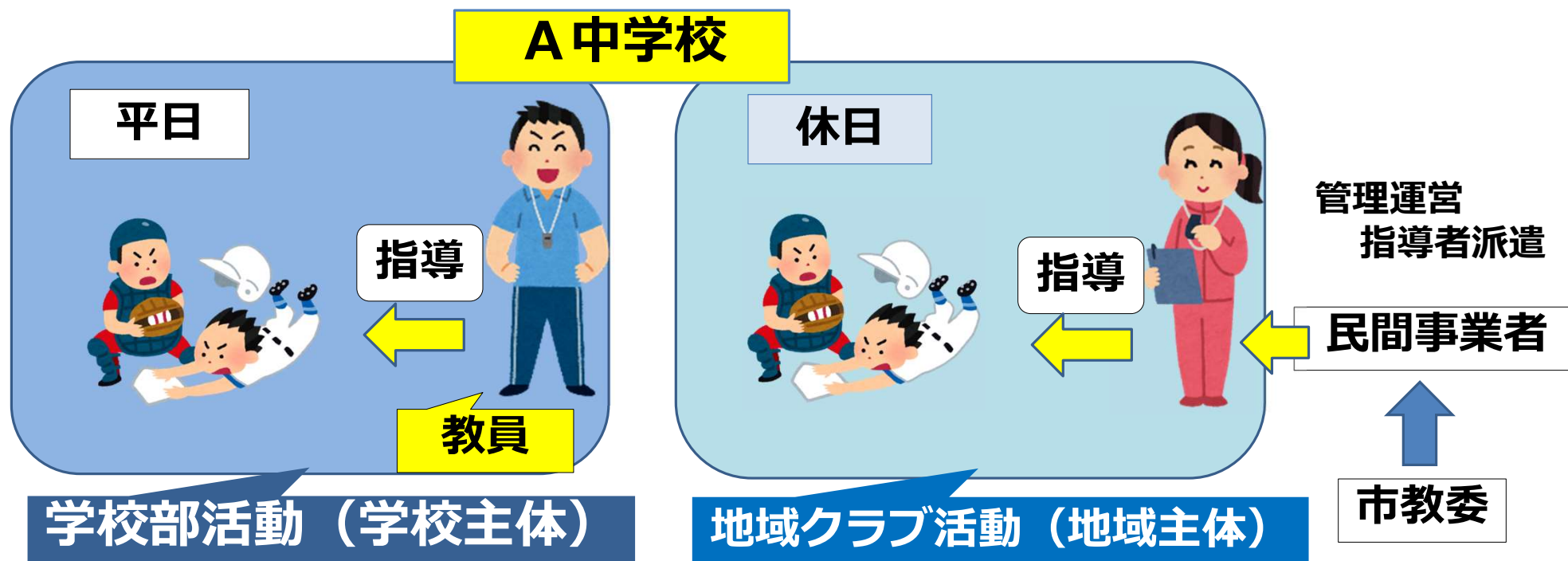
休日における実践研究の実施パターン

種別	活動の主体	学校管轄内外	指導者	取組の概要
① 民間事業者への委託	民間事業者 (地域クラブ活動)	管轄外	・ <u>民間指導者</u>	専門的指導者を学校に派遣し、休日活動を管理運営
② 大学との連携	学校 (学校部活動)	管轄内	・ 教員 (顧問) ・ <u>大学生</u>	教員の補助として、専門的指導ができる学生を休日部活動に派遣
③ プロチームとの連携	学校 (学校部活動)	管轄内	・ 教員 (顧問) ・ <u>プロチーム指導者</u>	教員の補助として、専門的指導者を休日部活動に派遣
④ 総合型地域スポーツクラブ、競技団体との連携	学校 (学校部活動)	管轄内	・ 教員 (顧問) ・ <u>部活動指導員</u>	地域団体から推薦された指導者を市教委が任用し、学校に配置



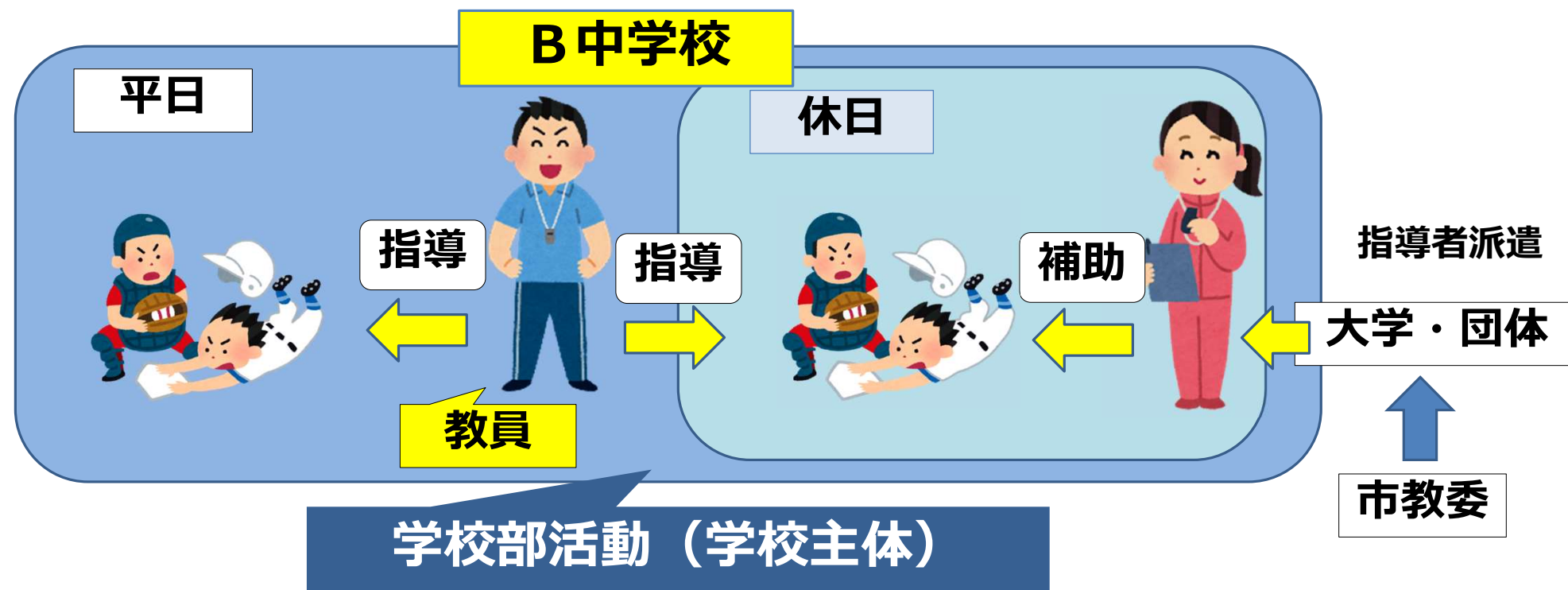
2 京都市のこれまでの取組

【実践例 1】 民間事業者への委託 (リーフラス株式会社、スポーツデータバンク株式会社)



2 京都市のこれまでの取組

【実践例 2】 大学、プロスポーツ等との連携
(大阪成蹊・びわこ成蹊スポーツ大学、京都カグヤライズ、京都ハンナリーズ)



2 京都市のこれまでの取組

実践研究事業（実証事業）の成果



- ・生徒から「難しい技術も分かりやすく教えてもらえる」「外部指導者のおかげで上達し、試合に勝てるようになった」という声を聞くなど好評。**生徒の技術向上に対するきめ細かなニーズに対応できた。**
- ・専門的な技術指導を任せることができる**外部の指導者の存在は、教員の負担軽減に大きく寄与。**
- ・特に**学校管理外**での取組は、教員が部活動に従事しないこととなるため、**教員の働き方改革に資する。**

2 京都市のこれまでの取組

実践研究事業（実証事業）の課題



- ・ 平日と休日の運営者（指導者）が変わることで、引継ぎ事項等の打合せ時間を要する。
- ・ 平日指導を受け持つ教員が休日の生徒の様子も気になることで、教員も休日に活動を見学することも発生。
- ・ 実践研究の費用負担を踏まえると、仮に全市の運動部活動の約800部で実施する場合、**膨大な予算が必要**。

2 京都市のこれまでの取組

まとめ

年度	本市の取組	国の取組
R2		文科省が休日部活動を段階的に地域移行する方針（9月）
R3	休日部活動の実践研究事業開始（国補助） ③ 1校2部→④10校17部→⑤16校28部→⑥26校58部	運動部活動地域移行の検討会議を設置（10月） 国補助事業開始
R4	総合教育会議「部活動地域移行」議論（9月） 庁内チーム会議を設置（11月）	部活動・地域クラブ活動ガイドライン策定（12月） ◆R5～7を改革推進期間（休日部活動中心）
R5	学校部活動及び地域クラブ活動在り方検討会議 設置（6年1月） ◆有識者・学校・PTA・スポーツ・文化芸術団体 他 ◆推進方針（案）について議論	
R6	推進方針（案）の市民意見募集（7年2～3月）	地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議を設置（8月）
R7	京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針 策定（7月） ◆実施計画策定（年度内想定）に向け議論を継続	実行会議で最終とりまとめ（5月） ◆R8～13を改革実行期間 （前期）未実施の自治体も休日部活動の地域展開に着手 （後期）休日展開＋平日改革の取組開始

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

全体構成

はじめに

- 1 推進方針策定の理念・趣旨
- 2 これまでの学校部活動をめぐる動き
- 3 豊かな環境づくりに向けた
本市が目指す将来像と具体的枠組
- 4 本市が目指す将来像及び具体的枠組実現に向けた基本的な考え方や諸課題
- 5 今後の進め方

【具体的枠組とは…】

令和10年度（2028年度）以降、
市立中学校部活動を廃止し、教育的意
義を継承する「京都版地域クラブ」を
創設し、各校で「放課後活動」も実施。

学校部活動



京都版地域クラブ

放課後活動

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

方針の理念

- まち中に豊かなスポーツや文化芸術があふれ、子どもたちはもとより、市民の皆様が将来にわたってスポーツ・文化芸術活動に継続して親しめる環境づくりを通して、**全ての人に「居場所」と「出番」がある、子どもを真ん中にしたウェルビーイングなまちを実現。**

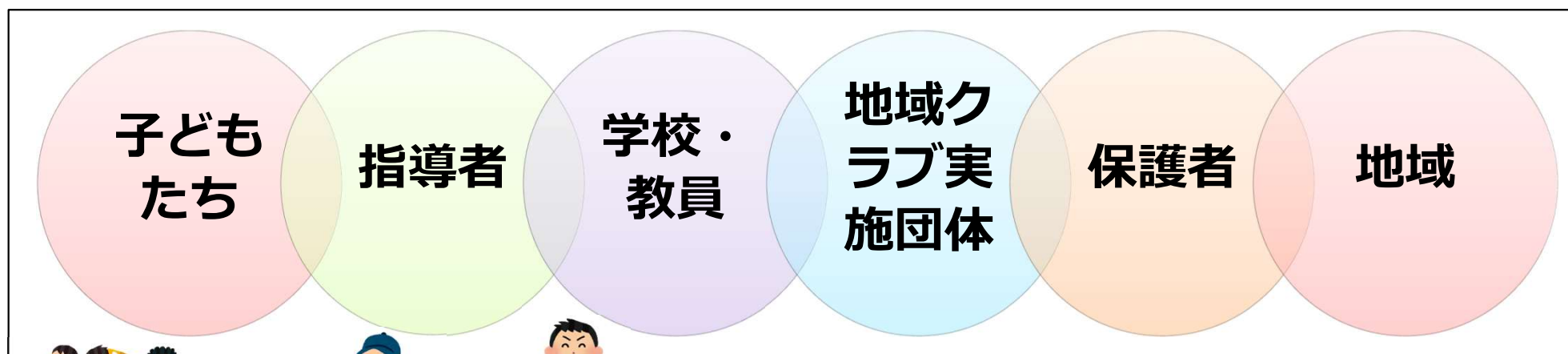
趣旨

- **「望ましい将来像」や、その実現に向けた具体的枠組に係る基本的な考え方**等を示し、地域全体で子どもたちの多彩な体験を支え育むため、本市内のまち中に子どもたちが夢中に取り組める**スポーツ・文化芸術があふれる環境づくり**に向けて取り組む。
- 本方針等に基づく取組により、**更なる子育て環境の充実及び地域コミュニティの活性化**を通じて 京都ならではのまちづくりにつなげる。

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

目指す将来像（望ましい姿）

6つの視点をベースとして



3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

目指す将来像（望ましい姿）

子どもたちの視点



こんな状態になることを目指す

- スポーツ・文化芸術活動に親しみ、体力や技能の向上が図られる。
- 通学する学校の状況や家庭の経済状況に左右されず、専門的な指導者のもとで、継続的に自分のやりたい活動ができる。
- 小学校や中学校を卒業しても、同じ活動を継続できる。
- 特定の活動だけでなく、ニュースポーツや京都ならではの多様な文化芸術活動を含め、様々な種類の活動がメニュー化され、各自の志向に応じて主体的に選択し参加できる。
- 障害の有無に関わらず、希望する活動を主体的に選択することを可能とするインクルーシブな活動となっている。

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

目指す将来像（望ましい姿）

こんな状態になることを目指す

民間のクラブチーム等を主催・運営する団体の視点



- 子どもたちが、**新たに**総合型地域スポーツクラブ、各学区の体育振興会、スポーツ推進委員会、スポーツ少年団、文化芸術団体等によるスポーツ・文化芸術活動及び習い事教室等に**参加することにより、各団体の活動の活性化**に繋がる。
- スポーツ・文化芸術に親しんだ子どもが、**大人になっても多世代の中で活動を継続**でき、さらには、各団体の指導者として次世代の子どもたちを育てていくこともできる。
- 教育活動に支障がない範囲で**学校施設**（グラウンド、体育館、実習室や和室など）**を活用して、地域に根差した活動**ができる。

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

目指す将来像（望ましい姿）



こんな状態になることを目指す

指導者を希望する人の視点

- 指導者として活動したい人が、本取組を契機に、活躍の場が充実する。
- 必要な資格を取得するための環境整備が整うとともに、中学生をはじめ多世代への指導を通して、指導者自身の指導力向上に繋がる。



こんな状態になることを目指す

保護者・家庭の視点

- 家庭の経済状況に左右されず、子どもの希望する活動に参加させることができる。
- 地域クラブ活動の指導者に子どもを安心して任せることができる。
- 地域クラブ活動に参加する子どもを通じて地域との繋がりや関係性を持つことができる。

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

目指す将来像の概念図

子どもたちの視点

- ✓ 新たなスポーツや文化芸術・STEAMとの出会い
- ✓ 楽しみたい子も、頑張りたい子も、極めたい子もマルチ志向の子にも
- ✓ 競技経験者や専門的な指導者の指導を受けられる
- ✓ 学校の枠を越えた新たな仲間
- ✓ 子ども達の選択肢を豊かに

指導者の視点

- ✓ 指導者としての活躍
- ✓ 指導力の向上

学校・教員の視点

- ✓ 兼職兼業制度で希望する教員は指導を継続
- ✓ 教員の負担軽減による学校教育活動の質的向上

地域クラブを実施する団体の視点

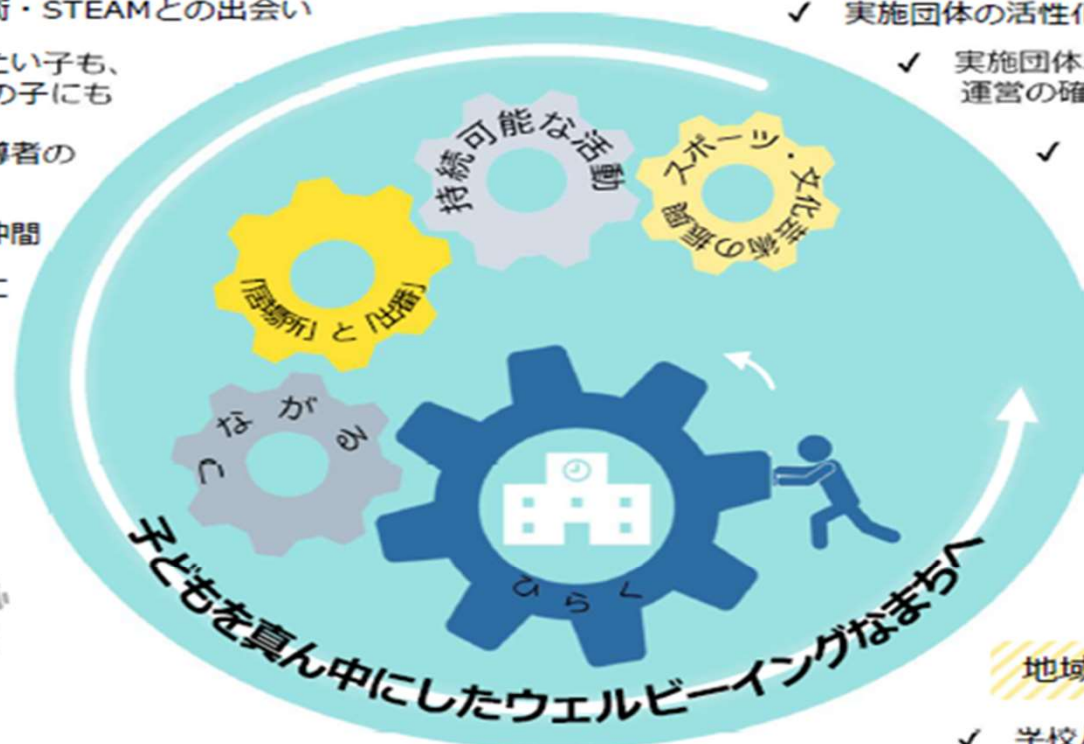
- ✓ 実施団体の活性化
- ✓ 実施団体の持続可能な運営の確立
- ✓ 大学のまち「京都」。大学生も活動をサポート

保護者の視点

- ✓ 家庭の経済状況に左右されない
- ✓ 子どもを安心して任せられる

地域の視点

- ✓ 学校が地域の拠点に
- ✓ 地域コミュニティの活性化
- ✓ 地域クラブへの参画機会が拡充



3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

方針のポイント

目指す将来像を実現するためには

○ 平日休日を一体化した部活動改革

- ・ **平日休日共に部活動を廃止**し、教育的意義を継承した「京都版地域クラブ」（学校管理外）を創設した上で「放課後活動」（学校管理内）も実施。

【参考】 政令市で平日・休日共に部活動廃止の方向性を打ち出すのは他に**神戸市**（R 8. 9～）と**静岡市**（R 9. 9～）がある。

○ 対象は京都市立中学校（義務教育学校後期課程、総合支援学校中等部含む）

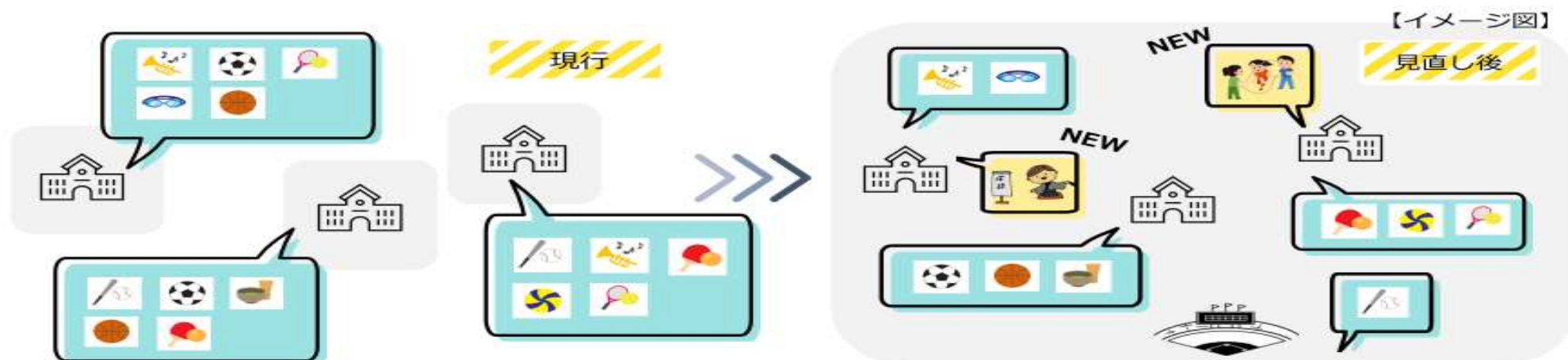
○ 改革の実施時期は令和 1 0 年度以降

- ・ **令和 9 年度に「全国中学校体育大会」が近畿ブロックで開催**されることや、**令和 1 0 年度中に全員制給食が実施される予定**で、時間割の大幅な見直しと放課後時間への影響が見込まれることを考慮。

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

京都版地域クラブ（仮称）とは

- 生徒の移動距離等を考慮した身近な地域ごとに、バランス良く活動場所や活動内容を設定。
- 指導者は地域や民間団体の方、大学生等が担うことを想定し、学校だけでなく地域全体で生徒の健全な育成に関わる（教員が兼業兼職制度により地域指導者となることを想定）。
- 費用は原則本人負担。



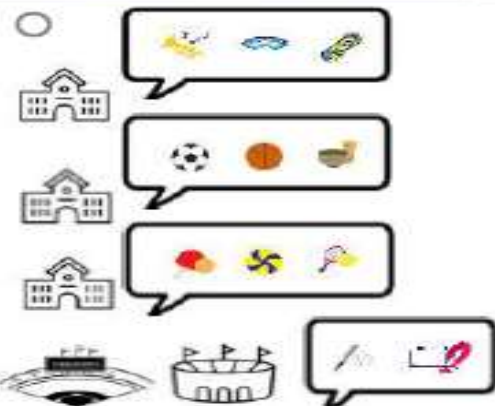
・学校ごとに様々な部活動（種目）を実施

- ・生徒の移動距離等を考慮し、身近な地域にバランスよく様々なクラブ（種目）の活動場所を設置します。
※ 学校行事や地域行事との関連が深い吹奏楽部については、学校単位の「地域クラブ（管理外）」の設置も含め、今後検討。
- ・これまでになかった新しい活動も想定しています。
- ・活動場所は学校が基本ですが、学校以外の施設利用も想定しています。

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

京都版地域クラブでできるようになること

Point 01 選択肢が広がります



- ✓ 在籍校以外の活動も選択できます
- ✓ 現在の部活動にない、新たな種目・活動もできます
- ✓ いろんな活動を広く体験できるようになります。
- ✓ 競技力向上を目的としたクラブだけではなく、友達と楽しく活動できるクラブも選択できます。

Point 02 実戦的な活動ができます



- ✓ 学校の枠を越えて仲間たちと活動します
- ✓ 試合形式など実戦的な活動が可能になります

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

京都版地域クラブでできるようになること

Point
03 中学生以外の多世代での活動が可能になります



✓ 中学生以外の多世代での活動も可能になります

Point
04 競技経験者や専門的な指導者から教えてもらえます



✓ 競技経験者や専門的な指導者から教えてもらえます

※指導者の適切な指導方法、生徒との関りに必要な研修等を実施します。

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

放課後活動とは

【想定】平日授業終了後 15:30(16:00)～17:00
(午前中授業、短縮授業等の場合もあり)

- 生徒の放課後の選択肢をさらに広げるため、平日完全下校の時刻まで、市立中学生に学校内での活動の場を確保する（本市独自の取組）
- 「放課後活動」は学校管理内で実施、活動内容は生徒が学校とともに主体的に考えて取り組むことが基本。
- 生徒が仲間とともに自分たちで取組を企画したり、時期に応じて活動内容を変えたりすることを想定。
- 教職員は、従来の学校部活動の顧問のような指導者ではなく、安全面での指導、生徒からの相談等、教育的な面から必要に応じて支援。
- 生徒の費用負担は原則なし。

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

学校部活動・京都版地域クラブ（仮称）・放課後活動の比較表

	これまで	新しい姿	
	学校部活動	京都版地域クラブ（仮称）	放課後活動
実施主体	学校・生徒	地域・民間の団体	学校・生徒
指導者	教員	地域・民間の指導者 （教職員の兼職兼業も想定）	教職員（支援） 外部人材
対象者	在籍校生徒	市立中学生、他	在籍校生徒
活動場所	在籍校	市立中学校、他	在籍校
費用負担	原則不要	原則本人負担	原則不要

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

現状（これまで）

	平日	休日
午前	授業等	休日部活動 (週1)
午後		
夜間	17 時完全下校 既存の民間のクラブチーム等	

平日部活動(週4)

既存の民間のクラブチーム等

【部活動】

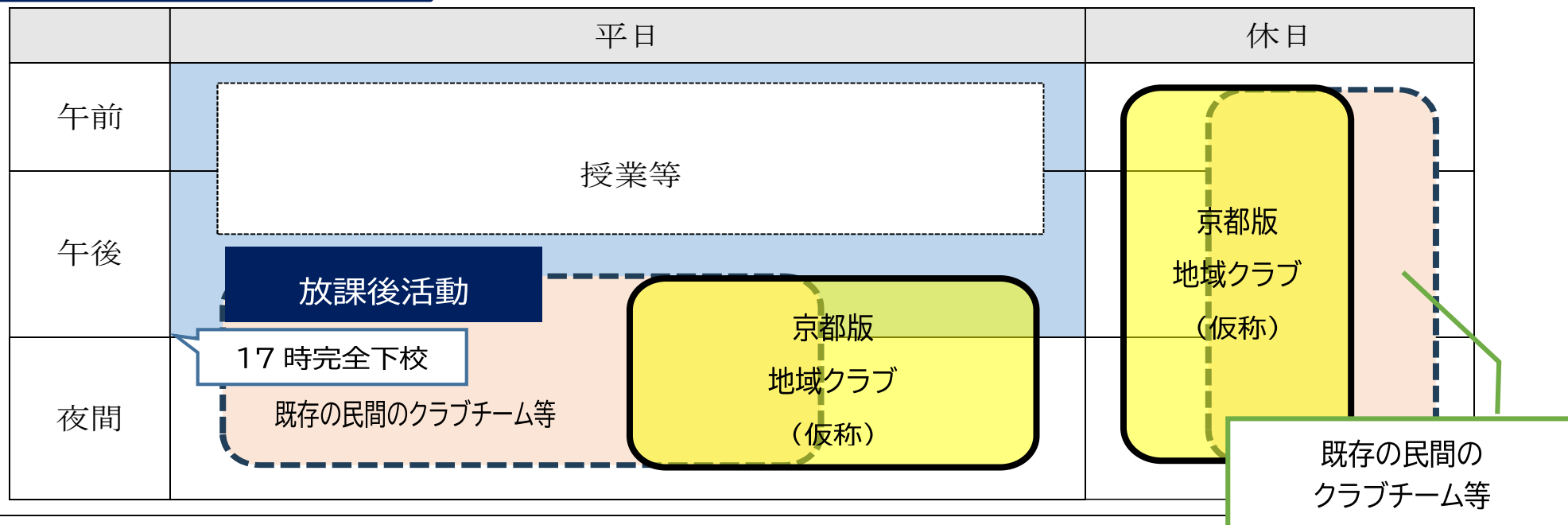
- ・ 学校教育活動として校内で実施。多くは特定の競技等を一つ選択し3年間通して参加。

【既存の民間のクラブチーム等】

- ・ 総合型や競技ごとなどチームごとに様々な種類・内容あり。

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

将来像（新しい姿）



【京都版地域クラブ（仮称）】

- ・ 学校管理外の活動として、在籍校、近隣校又は拠点施設で活動。これまでの部活動にはない種目等も想定。

【放課後活動】

- ・ 学校教育活動として校内で実施。生徒の主体性を生かし様々な内容の活動を想定。

【既存の民間のクラブチーム等】

- ・ 総合型や競技ごとなどチームごとに様々な種類・内容あり。

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

子どもから見た具体的な変化



新しい枠組みになると...
例えば...

- 自分の通う学校に入りたい部活動がない場合、これまではあきらめるか、別の部活動に入るか、学校外の民間クラブに入るかしていたが、**今後は**、学校（近隣校）に京都版地域クラブが新設され、**「放課後活動」を含め、選択の幅が広がり、やりたい活動ができる**ようになる。
- 一つの競技・内容だけでなく、**自分の興味関心に応じて「京都版地域クラブ」や「放課後活動」を組み合わせる**ことにより、**様々な活動を広く体験できる**ようになる。

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

今後の諸課題

「京都版地域クラブ」についての検討事項

- ・ **設置種目（活動内容）や場所、生徒の移動手段**の検討
- ・ **実施主体の確保**（既存のクラブチーム、大学、民間企業等との連携など）
- ・ **指導者の確保、相談窓口**
- ・ 生徒の多様な志向に応じた活動の整備
- ・ 「京都版地域クラブ」としての**ガイドライン**等の策定（休業日の設定等）
- ・ 学校施設活用に向けた**ガイドライン**等の検討
- ・ **参加費をはじめ費用負担のあり方の検討**
- ・ **教員の兼職兼業制度**の検討（「京都版地域クラブ」への参画）
- ・ **大会の在り方**について関係者と検討

「放課後活動」についての検討事項

- ・ 円滑な実施に向けた共通理解と活動内容・日数等についての検討
- ・ 外部人材活用についての検討

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

今後の諸課題【京都版地域クラブ】



設置種目（活動内容）の検討

- 従来の学校部活動に所属するような生徒だけでなく、所属しなかった層（楽しみたい、運動が苦手、障害のある生徒等）など、それぞれの希望に応じて安心して活動に参加できる環境づくりに向け、多様な活動内容を確保できる方策を検討。



生徒の志向の把握や既存の地域スポーツ・文化芸術団体の把握が重要



小中学生に対するアンケート調査や、既存の地域団体に対して基本事項や京都版地域クラブの参加意向調査などを行う。

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

今後の諸課題【京都版地域クラブ】

活動場所、移動手段の検討



- **学校施設の積極的な活用**に向けた方策を検討。
- 現在学校単位で実施している部活動を、生徒の移動距離等を考慮し、「京都版地域クラブ」として新たに設置するため、**具体的な場所**について検討。→種目により柔軟に対応（例：全市、行政区、学校単位）
- 在籍校より遠距離となることも考えられることから、参加する生徒の**移動手段に関する安全対策等**を検討。



令和7年度、複数校にまたがる地域で活動を行う取組において、**自転車使用についての実践研究**を予定。

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

今後の諸課題【京都版地域クラブ】



実施主体の確保の検討

【候補】

総合型地域スポーツクラブ、体育振興会、スポーツ推進委員会、スポーツ少年団、競技団体、クラブチーム、プロスポーツチーム、文化芸術団体、習い事教室、民間事業者、大学、NPO法人、学校運営協議会 など



- 地域・民間団体に対して、**今まで部活動になかった活動（ニュースポーツ、文化芸術）も含め、「京都版地域クラブ」への参画を呼び掛け**

指導者の確保の検討

- 一定条件下での登録制による公募等、京都版地域クラブへの具体的な参画方法や指導者確保の方策（人材バンク設置運営）等を検討**

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

今後の諸課題【京都版地域クラブ】

保護者等の経済負担の軽減



- 家庭の経済格差が体験格差とならないよう、家庭の経済状況に関わらず希望する生徒が参加できるための**公費負担の在り方を検討**。



国は、**本年8月**に、以下の内容を示す予定

- ① 「**地域クラブ（活動）**」の定義や要件。
- ② 「**地域クラブ（活動）**」における保護者負担の目安額。



- 今後、国が示す内容等を参考に具体的な制度や枠組について検討。

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

今後の諸課題【京都版地域クラブ】

大会やコンクール等の運営の在り方



- 現行の大会やコンクール等は主に学校を単位として参加する形であるが、京都版地域クラブとしての参加について、**その条件や手続き、大会自体の運営体制も含めて今後の望ましい在り方を関係者間で検討。**



京都版地域クラブの参加対象

- 京都版地域クラブは、**市立中学校の部活動を廃止する代わりに創設されるものであるが、市立中学校以外の生徒の参加等**については、今後検討。

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

今後の諸課題

「京都版地域クラブ」についての検討事項

- ・ 設置種目（活動内容）や場所、生徒の移動手段の検討
- ・ 実施主体の確保（既存のクラブチーム、大学、民間企業等との連携など）

・ 指導

・ 生

・ 「

・ 学

・ 参

・ 教

・ 大

○ 今後の諸課題やその対応策については、引き続き、「在り方検討会議」において議論・検討。

○ 具体的な年次計画や地域クラブの手続きやガイドラインなども盛り込んだ「実施計画」を、令和7年度中を目標に策定予定。

「放課後活動」についての検討事項

- ・ 円滑な実施に向けた共通理解と活動内容・日数等についての検討
- ・ 外部人材活用についての検討

3 京都市学校部活動及び地域クラブ活動推進方針の内容

今後の進め方

2025～2027年度

準備・実証期間

2028～2031年度

移行期間

部活動	現行の部活動を基本的には維持しながら活動します	
実施計画	新たな仕組みについて 具体的な実施計画の策定 を進めます	
活動場所	現在学校単位で設置している部活動を、生徒の移動距離等を考慮し、「京都版地域クラブ（仮称）」として新たに設置するため、具体的な場所についての検討を進めます ※種目によって活動場所の考え方は柔軟に対応します（全市、行政区、学校単位）	
団体募集	・地域・民間団体に対して、「京都版地域クラブ（仮称）」への参画を呼びかけます（登録制等を想定しており、参加は各団体の任意です） ・今までの部活動になかった活動等（ニュースポーツ、文化芸術）を担う団体の参画も歓迎します	
指導者確保	指導者を希望される方を募集するなど、指導者確保の方策（人材バンク等）について検討し、準備を進めます	
情報発信	子どもたちや保護者、想定される実施主体、市民等に対し、情報発信します	
先行実施	可能なところから順次、「京都版地域クラブ（仮称）」を先行実施します	
		現行の部活動を廃止し、 2つの新たな仕組み 「京都版地域クラブ（仮称）」 「放課後活動」 の実施を目指します

4 市民意見募集結果と今後の予定

市民意見募集結果

市民意見募集（パブリックコメント）の概要



【募集期間】 令和7年2月28日～3月31日

【ご意見数】 ・ 意見者数 2,419人

（内訳：中学生含む一般646人、**小学生1,773人**）

・ 意見総数 3,441件

【意見の傾向】

- ・ 部活動地域展開の賛否を問う項目はないが **「部活動継続を希望する」という意見は全体の1割にも満たない数。**
- ・ 部活動を廃止し **新たな枠組の創設に賛同** する人や、地域展開を前提に **「こんな活動をしたい」という意見、課題に対して「こうして欲しい」という要望、「こうしたらどうか」という前向きな提案などが全体の8割弱**を占めた。

4 市民意見募集結果と今後の予定

市民意見募集結果

小学生の意見と本市の回答



ニュースで部活動がなくなると言われていて心配だったけど、京都市でも新たな取組が考えられていることがわかり安心した。

【回答】皆さんが将来にわたってスポーツ・文化芸術活動に親しむと共に、体力や技術が身につくようなまちづくりを進めていきます。



知らない人に教わるのが少し不安だ。

【回答】体罰やハラスメントがおこらないよう、教えてくれる人たちへの研修をなどを行います。また、何か困ったことがあれば、すぐに相談できる窓口の設置も考えていきます。



4 市民意見募集結果と今後の予定

市民意見募集結果

小学生の意見と本市の回答



活動日や活動時間はどのようなの？

【回答】 安心安全でより良い活動ができるよう、お休みの日や活動時間を示すガイドラインを作っていきます。



地域クラブに入るかどうかは会費によると思う。

【回答】 会費に関係なく、皆さんがやりたい活動ができるような仕組みを考えていきます。



令和10年度の中3はどうなるの？

【回答】 令和10年度に中1～中3となる皆さんが困らないよう、できるだけ早く皆さんにお知らせします。



4 市民意見募集結果と今後の予定

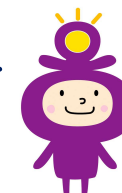
市民意見募集結果

その他一般意見と本市の回答



地域クラブ向けのガイドラインは細かすぎると実施主体が対応できなくなり、子どもたちが望む活動ができなくなるので、必要最低限のことを定めるので良いと思う。

【回答】現行部活動ガイドラインの主旨を踏まえつつ、参加する生徒や指導者にとって安心安全で充実した活動となるよう検討。



吹奏楽部は、学校行事や生徒会活動のみならず、地域の奉仕活動も行っており、地域を活性化するうえでも大切な活動である。

【回答】本推進方針の具体的枠組の「京都版地域クラブ」に、「学校行事や地域行事との関連が深い吹奏楽部については、学校単位の地域クラブの設置も含め今後検討する」旨を追記した。



4 市民意見募集結果と今後の予定

今後の予定

R7

- **推進方針策定**（7月）
- **実施計画策定**（検討課題への対応、地域クラブガイドライン、年次計画等を盛り込む）
- **実証事業**（複数中学校での合同実施、自転車利用の検証、部活動にない種目の実施他）
- **実態調査**（民間地域クラブの状況や京都版地域クラブへの参加意向調査）

R7~R9

- 各地域クラブを統括する運営団体に関する検討（安定的な事業運営）
- 学校施設利用に関する検討（既存事業との関連、学校負担にならない施設管理）
- 指導者確保・養成に向けた制度構築、関係機関との連携
- 受益者負担と公的支援に関する検討
- 実施団体募集、地域クラブの具体的設置（一部先行実施）
- 子ども・保護者・市民への情報発信・周知
- 放課後活動に関する中学校現場との調整



R10
(~R13)

- 市内全域で京都版地域クラブ本格実施（平日・休日とも）
- 各校で放課後活動の実施

4 市民意見募集結果と今後の予定

本日のまとめ

- 方針の理念は、まち中に豊かなスポーツや文化芸術が溢れ、子どもたちはもとより、市民の皆様が将来にわたってスポーツ・文化芸術活動に継続して親しめる環境づくりを通して**全ての人に「居場所」と「出番」**がある**「子どもを真ん中にしたウェルビーイングなまち」**を実現。

そのために、**令和10年度以降、市立中学校部活動を廃止して、新たに「京都版地域クラブ」と「放課後活動」を創設。**

- **今後、本方針をもとに、**①スポーツ・文化芸術活動に携わる関係者の方々のご意見も伺いながらより良い方法や具体的方策を検討し、
② 推進方針の具体化に向けた年次計画や課題への対応性を盛り込んだ実施計画を策定予定。（令和7年度中を目標）

- **本方針の周知にご協力いただくと共に、皆様のご意見やアイデアを、是非本市にお寄せください。**

Q 部活動を廃止する理由は？

A 学校部活動については、学校教育活動の一環として、体力向上や文化芸術に親しむことだけでなく、目標をもって取り組む中での責任感や連帯感等、教育的意義も高い活動であり、これまで、教員の献身的な支えにより、学校単位の活動として定着してきた。

しかし、少子化等により、学校の部活動数が減り、やりたい部活動が自分の学校になかったり、部員数が少なく実戦的な活動ができなくなったりしているほか、教員も未経験の競技や種目の指導の負担や長時間勤務の大きな要因となるなどの課題もあり、現状の枠組みの継続は困難となってきた。

このため、学校内で運営されてきた活動を広く地域に開き、地域全体で支え、新たな価値を創出することを通して、子どもたちの将来にわたるスポーツ・文化芸術環境を充実させるため、部活動改革を行うこととしたもの。

Q 京都版地域クラブを設置する理由は？

A 現状の部活動の課題を踏まえ、学校単位ではなく、在籍する学校の枠を越えて、競技経験がある指導者が行う多様な活動の中から子どもたちが選択できる地域クラブにすることで、生徒がより自身の興味関心に応じた競技や活動を選べるとともに、複数校から生徒が参加することで活動規模が拡大し、より実戦的な活動ができる環境をつくるため。

参考
1-2 よくあるご質問

Q 放課後活動の設置理由は？

- A 従来の部活動は廃止したうえで、基本的には「地域クラブ」を活動場所としていくことを想定しているが、様々な理由（他校生徒との積極的な活動までは希望していない等）で、地域クラブには参加しない生徒も想定される中、
- ① 放課後の校内において、自分たちで主体的に様々な活動をしたいという思いを持つ生徒、
 - ② 校内での活動（学校単位の活動）として参加したいという思いを持つ生徒、
 - ③ 学校単位で活動することが相応しいような活動（例：放送、美術など）を希望する生徒 など
- 多様な生徒のニーズに応え、生徒の放課後の居場所づくり、活躍の場にもつながる環境の一つとするため。

Q どのような京都版地域クラブが、どこに、いくつくらい設置されるのか？

- A 具体的には未定であるが、現状の学校部活動の設置状況や、生徒数、実施主体となり得る団体の状況などが目安になると考えている。これまでの部活動にはなかったような種目（ニュースポーツ、ダンス、様々な文化芸術活動）のクラブが設置されることも考えられ、子どもたちの選択肢が現状より広がっていくように検討していく。

参考
1-3 よくあるご質問

Q 令和10年度当初から一斉に部活動がなくなるのか？

A 未定であるが、神戸市や静岡市の例では、中学3年生が活動を終える夏以降に一斉に切り替えることとされている。制度移行期の子どもたちへの影響等を踏まえながら慎重に検討していく。

Q 令和7年度中に作成予定とされる「実施計画」には、どのような内容が盛り込まれるのか？

A 京都版地域クラブ活動や放課後活動の具体的な制度設計に向け、検討すべき事項（実施主体や指導者、活動場所、保護者の経済的負担等）への対応の検討や、京都版地域クラブのガイドライン、更に令和10年度までの準備期間の取組や移行期間の取組等を含めた年次計画について定める予定。

Q 京都版地域クラブは、スポーツ系だけではなく、文化系も整備されるのか？

A 文化系部活動も地域クラブとすることで、従来自校に対象の活動がなかった生徒の選択肢が広がると考えられ、設置を検討していく。但し、文化系については、コンクール等への出場だけでなく、日頃の活動が学校行事や校内での取組と密接に関連している場合も多く、どの活動が地域クラブに馴染むのか等は、今後、学校現場の意見を聞きながら検討していく。

参考 2-1 市民意見募集の結果概要

市民意見募集の概要

(1) 募集期間

令和7年2月28日（金）から令和7年3月31日（月）まで

(2) 募集冊子及び配布場所等

募集冊子：推進方針本冊、推進方針概要版、推進方針概要版（子ども版）

配布場所等：◆市役所案内所、各区役所・支所、出張所、図書館等教育機関において推進方針概要版を配布、京都市情報館へ掲載。

◆子どもたちから多くの意見をいただけるよう、推進方針（案）の概要をまとめた「子ども版」を作成し、学校を通じて周知。

◆京都市立学校の保護者に対して、保護者連絡ツールにより配信。

◆スポーツ・文化芸術団体にも説明のうえ周知。

(3) 御意見数

意見者数：2, 419人（一般・中学生646人、小学生1, 773人）

意見総数：3, 441件

(4) 御意見を頂いた方の属性 ※重複あり

小学生	中学生	高校生
1, 773人	366人	2人
大学生	保護者	教職員
5人	175人	48人
スポーツ関係者（指導者）	文化芸術関係者（指導者）	その他
49人	11人	21人
記載なし		
5人		

市民意見の傾向

(1) 内容について

◆京都版地域クラブ（仮称）の活動場所573件、指導者452件、推進方針全般302件の順に多くの意見を頂いた。

(2) 意見の傾向について

◆市民意見募集では、賛否を問う項目はないが、「部活動継続を希望する」という意見は全体の約1割にも満たない数であった。

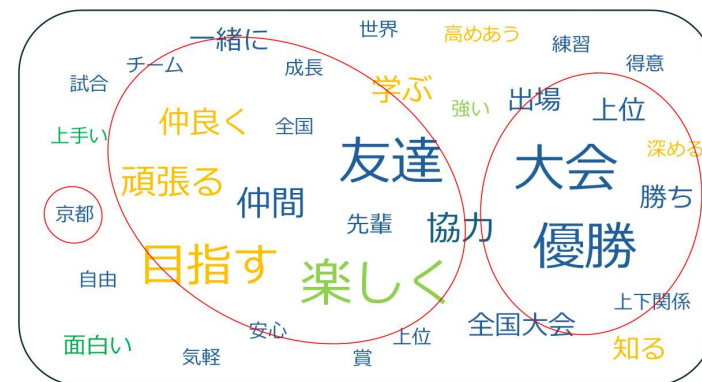
◆部活動を廃止して、新たな枠組みを創設することに賛同する人や、地域展開を前提に、「こんな活動をしたい」という意見、課題に対して「こうして欲しい」といった要望、「こうしたらどうか」といった前向きな提案などの意見を寄せた方は全体の8割弱を占めた。

(3) 小学生からの意見について ※詳細はP11～13参照

◆活動の目的については、「友達や仲間」、「楽しく」、「大会・出場」というワードが多くあげられた。

◆種目については、既存の部活動にない活動も多くあげられた。

「中学生になったらどんな活動がしてみたいですか」という問いに対する回答



市民意見募集の結果概要

方針に反映した意見

推進方針全般について

項目	主な意見	本市の考え方
推進方針全般	○ 地域展開は運動をしない一つの理由となり、子どもの体力低下が進むのではないかと懸念する。 ○ 学校での部活がなくなることで今より運動不足になる子が増える気がする。（中学生）	本推進方針の策定趣旨・理念を踏まえ、「望ましい将来像（目指す姿）」を掲げており、そのうちの「子どもたちの視点」において、子どもたちが「スポーツ・文化芸術活動に継続して親しむとともに、体力や技能の向上が図られる環境がある」旨も追記。

京都版地域クラブ（仮称）について

項目	主な意見	本市の考え方
活動内容	○ 地域クラブに委託すると、勝利至上主義にならないか心配。レベル別はもちろん、単にスポーツを楽しむという場が必要ではないか。 ○ 障害のある生徒の活動の場所についての議論が見えない。	「京都版地域クラブ（仮称）に関する検討すべき事項」に「従来の学校部活動に所属していた生徒はもとより、学校部活動に所属していないもののスポーツや文化芸術を楽しみたい生徒、運動が苦手な生徒及び障害のある生徒など、多様な生徒がそれぞれの希望に応じて安心して活動に参加できる環境づくりを進める視点を大切にする」ことを加筆。
活動場所	○ 京都版地域クラブについてメリットだけではなく、デメリットも説明して欲しい。 ○ 移動が増えれば事故や事件に巻き込まれる可能性も高まるため、できるだけ移動する必要がないよう配慮してほしい。 ○ 校区外であれば、親の送迎が必要になったり、送迎できない場合は参加できない可能性がある。保護者の送迎に頼らず、公共交通機関で行ける距離に設置してほしい。	京都版地域クラブ（仮称）では、これまでの部活動以上に生徒の多様な志向への対応が可能になるが、客観的な違いとして、参加に必要な費用は、原則本人負担となることや本人の選択によっては在籍校以外も活動場所となる場合があることから、本推進方針のうちの、「京都版地域クラブ（仮称）に関する検討すべき事項」に新たに「活動場所は在籍校より遠距離となることも考えられる」旨も明記（参加に必要な費用が原則本人負担となることは記載済）。今後、生徒の移動手段に関する安全対策等を検討。

今後の進め方について

項目	主な意見	本市の考え方
今後の進め方	○ 令和10年度から実施となれば、現在の小学5年生は中学2年生で部活動が廃止となる。移行期間はどのような対応になるか説明が欲しい。 ○ 部活動が新たな仕組みになるのは楽しみだが、どのように進んでいくのか分からないから不安。（小学生）	本推進方針における「今後の進め方」に「実施計画には、令和10年度から令和13年度の移行期間における具体的なスケジュールを盛り込み、可能な限り早期に周知を行う」ことを加筆。

市民意見募集の結果概要

その他の意見

京都版地域クラブ（仮称）について

項目	主な意見	本市の考え方
指導者	○ 専門的な指導者を確保できるのか。 ○ 地域の人や大学生に教えてもらえることで、地域の方との交流が深まったり、新たな考えを取り入れて部活動が上達したりすると思うので楽しみ。（小学生）	大学との連携や人材バンクの創設等による新たな指導者の確保や部活動指導員等の既存人材の活用等、指導者確保に努めるとともに、研修の実施等、指導の質の向上に向けた仕組みづくりを進める。
ガイドライン	○ ガイドラインは、細か過ぎると実施主体が対応できなくなり、子どもたちの望んでいるスポーツ等ができなくなる恐れがあるため、必要最低限でいいと思う。 ○ トラブルが起こったときに、すぐに対応することができるか不安。（小学生）	現行の学校部活動では、「京都市立中学校部活動ガイドライン」において、生徒や指導者にとって、より安心安全で充実した活動となるよう、休養日や活動時間、運営や指導者の在り方等を示しており、その主旨も踏まえつつ、京都版地域クラブ（仮称）に参加する生徒や指導者にとって安心安全で充実した活動となるためのガイドラインの策定について検討していく。
保護者等の経済的負担の軽減	○ 受益者負担は避けられないと思うが、過度な負担にならないようにしてほしい。 ○ 思いきり好きな活動をしたいが、できるだけ家族に負担はかけたくない。（小学生）	国においても、経済的に困窮する世帯の生徒への支援について、議論等がなされている状況であり、動向等もしっかりと注視しながら、国支援制度創設を要望するとともに、本市における費用支援の在り方について検討していく。
参加対象	○ 地域の方や大学生を巻き込み、世代を超えて触れ合うことで、地域の活性化や子どもの将来の選択肢を広がる。 ○ 初対面の人と話すのが苦手なので、違う学校の人と一緒に活動するのは少し不安。（小学生）	本方針は、本市が設置する中学校（義務教育学校後期課程を含む）及び総合支援学校中学部に在籍する生徒を対象としているが、本市立中学生以外の京都版地域クラブ（仮称）への参加等については、制限を設けるかどうかも含め、今後検討していく。

放課後活動について

項目	主な意見	本市の考え方
放課後活動	○ 自分の学校で信頼のある教員と活動できる放課後活動も用意されていることが素晴らしい。 ○ 生徒の自主性を高めることができて良い。（小学生） ○ 自由すぎると、意見がまとまらなかったり、みんなと協力しながらうまく進めたりできるか不安。（小学生）	内容等については、多様な在り方が考えられることから、各教職員が共通理解のもとで円滑かつ安全に実施できるよう、活動内容や日数、外部人材の活用等の具体的な事例を検討していく。

市民意見募集の結果概要

小学生の意見

◆意見の傾向（「中学校部活動が新たな仕組みに変わることについて、思ったこと、楽しみに感じたこと、不安に感じたこと等を教えてください。」）

単語	件数	意見
部活	4 3 7	・ 入りたい部活動がないことも多かったので、活動の種類が増え様々な選択肢から自由に選べることは良いと思う。 ・ 他の学校の人たちと一緒に部活動をするのはいいと思った。 ・ 学校での部活がなくなることにより運動不足になる子が増える気がする。 ・ 兄弟や先輩がしていた部活動に憧れがあったため、これまでどおりの部活動がしたい。
学校	3 1 8	・ 地域と学校の輪が広がり、明るい地域になると思う ・ 自分の学校だけでなく、近くの学校や京都市の施設などで活動できることが楽しみ。 ・ 学校側の負担が減るのはいいと思った。
楽しみ	3 0 0	・ 他の学校の人と交流することが楽しみ。 ・ したい部活に特化した人たちが教えてくれるなら、もっと部活動が楽しくなると思います。 ・ 楽しくスポーツがしたい、という人たちにも新しい選択肢となると思うので楽しみ。 ・ 放課後活動が、自分のやりたいことが出来るし、活動を強制されているという意識が出にくいと思うから、楽しみだと思いました。 ・ 姉から部活動のことを聞いていてそれを楽しみにしていたけれど変わるのはいさ少し不安。
不安	2 9 4	・ 初対面の人と話すのが苦手なので、違う学校の人と一緒に活動するのは少し不安。 ・ 知らない人に教わるのが少し不安。 ・ 自分が入りたかった部活がなくなったら、どうしよう、という不安。 ・ トラブルが起こったときに、すぐに対応することができるか不安。 ・ 地域に部活動を移行すると、活動の幅が広がる一方で実力や人数の差が出たり、試合などがしにくくなる可能性もあると思います。また、試合にあまり出場できない人が出てしまうかもしれないと不安に感じます。
先生	1 8 4	・ 先生の仕事が少し楽になり働き方改革に繋がるのであれば良いと思う。 ・ 先生だけではなく、地域の人や大学生に教えてもらえることで、新たな考えを取り入れて部活動が上達したりすると思うので楽しみ。 ・ 学校の先生に教えてもらう機会が少なくなるということに、少し残念だなと感じた。 ・ 先生以外の誰かもわからない大人に教えてもらうのは、信用ならなくて怖いです。

市民意見募集の結果概要

小学生の意見

◆意見の傾向（「中学校部活動が新たな仕組みに変わることについて、思ったこと、楽しみに感じたこと、不安に感じたこと等を教えてください。」）

単語	件数	意見
仕組み	1 5 3	・ニュースで部活動がなくなると言われ心配だったが、市でも新たな仕組みが考えられていることが分かり、安心。 ・新たな仕組みになるのはできる部活動の種類が増えるのが楽しみだが、どのように進むのか分からないから不安。 ・習い事のように、週1回から選択でき、年度途中でも柔軟に他クラブの見学や編入ができる仕組みにしてほしい。
地域	1 5 1	・地域の人や大学生の人が教えてくれるのはいいなと思いました。 ・京都版地域クラブがあれば、やりたい部活があるけれどこの中学校にはない！ということにならないので、賛成。 ・「京都版地域クラブ（仮称）」について、希望する種目に人が集まらない場合、廃部になるか。
放課後	1 3 2	・放課後活動は自分たちで活動を決め、時期により内容を変えられるので生徒の自主性を高めることができて良い。 ・放課後、通っている学校で、同じ学校の子どもたちだけで活動するので、安心だしいいと思いました。 ・放課後活動は、自由すぎると意見がまとまらなかったり、協力しながらみんなとうまく進めたりできるか不安。
交流	5 4	・他校生徒と一緒に活動することで新たな関わりが生まれ、交流を深めたり、社会性を養えるのでとてもいいと思う。 ・地域の人、大学生などと交流ができていいと思う
好き	4 7	・自分たちの好きな活動が出来るのがいいなと思いました。 ・思いきり好きな活動をしたいが、できるだけ家族に負担はかけたくない。
場所	3 9	・遠くの場所に行く場合、活動時間や帰宅時間に影響を及ぼすことや、安全面が心配。 ・活動する場所が遠くなれば親が行かないといけなくなるが、現実的に厳しい。
大変	3 6	・自分が入りたいクラブがもしお金がいるなら大変かもしれないと心配に思いました。 ・練習場所に行くのが大変そうで練習時間が減りそう。
会費	3 2	・京都版地域クラブは会費がかかるけど、専門の人に教わるができるようになるのはすごくいいと思う。 ・京都版地域クラブは楽しそうだが入るかどうかは会費によると思う。
移動	3 1	・希望の活動を行う学校が近くになかった場合、交通費や移動手段はどうなるのか。誰が引率するのか。
大会	2 5	・今までと同じように大会などに出ることはできるのか。大会に出るときにどの学校の名前で大会に出るのか。
休日	1 8	・休日にも部活があるか。
2028年	1 8	・2028年度からとなると、私たちは中学を卒業してしまっているので、早く仕組みが変わってくれたら嬉しい。

市民意見募集の結果概要

小学生の意見

◆希望する活動（「みなさんは中学生になったら、どんな活動がしてみたいですか」）

ジャンル	人数	活動内容
運動	1,061	①サッカー161 ②運動・スポーツ160 ③バスケ124 ④野球113 ⑤バレー98 ⑥バド95 ⑦陸上82 ⑧テニス71 ⑨卓球41 ⑩水泳33 ⑪剣道22 ⑫ラグビー20 ⑬体操14 ⑭スケート13 ⑮柔道7 ⑯スキー4 ⑰ソフトボール2 ⑱ワンゲル1
文化芸術	628	①家庭科（料理・手芸）189 ②美術129 ③吹奏楽108 ④科学37 ⑤音楽・歌・作曲36 ⑥茶道28 ⑦パソコン（プログラミング）22 ⑧文化・芸術19 ⑨華道11 ⑩合唱・オーケストラ10 ⑪囲碁将棋8 ⑫文芸6 ⑬演劇6 ⑭英会話5 ⑮伝統工芸・日本文化5 ⑯和太鼓・ドラム4 ⑰ボランティア3 ⑱放送2
既存の部活動 にない活動	394	①eスポーツ62 ②ダンス・チア61 ③ゲーム31 ④勉強27 ⑤漫画・イラスト24 ⑥空手・テコンドー・合気道13 ⑦ドッチボール10 ⑧かるた・百人一首9 ⑨ピアノ9 ⑩スケボー8 ⑪写真8 ⑫スノーボード8 ⑬メイク・美容・ファッション7 ⑭書道・習字7 ⑮ロボット・機械6 ⑯動物観察・飼育、バレエ、タグラグビー、鉄道、弓道、歴史…以上5 ⑰ローラースケート、ボードゲーム、ボート・カヌー…以上4 ⑱数学、そろばん、バトントワリング、琴、バイオリン、ゴルフ、キャンプ・課外活動、釣り…以上3 ⑳ラキュー・ピタゴラスイッチ、馬術・乗馬、電気、地理、ボクシング…以上2 ㉑アニメ制作、車、射撃、旅行、手話、お笑い、建築、ディベート、馬術、登山、なわとび、掃除、能、狂言、 日本舞踊、寺社仏閣、鬼ごっこ、ボウリング、クライミング、YouTube、推し活、モルック、ボルタリング、 障害者スポーツ、クイズ、天体観測、プロレス、オセロ…以上1

◆活動の目的（「みなさんは中学生になったら、どんな活動がしてみたいですか」）

単語	①友達・仲間417 ②楽しく333 ③大会・出場267 ④優勝・上位・賞・勝利213 ⑤仲良く74 ⑥勉強・学ぶ・知る44 ⑦協力38 ⑧頑張る38 ⑨全国24 ⑩先輩・後輩・上下関係13 ⑪世界9 ⑫成長、高め合う8 ⑬安心、安全5 ⑭自由4 ⑮気軽4
----	---

(参考3-1) 教員・生徒向けアンケート調査結果（令和5年度）

令和5年度 教員向けアンケート調査の実施（7月～8月）

【対象】 市立中学校・義務教育学校の教諭、常勤講師

【回答】 1,358名（回答率69.9%）

【内容】 教員の部活動に関する意識や休日地域クラブでの指導希望を調査

令和5年度 生徒向けアンケート調査の実施（8月～9月）

【対象】 市立中学校・義務教育学校の抽出校12校の生徒

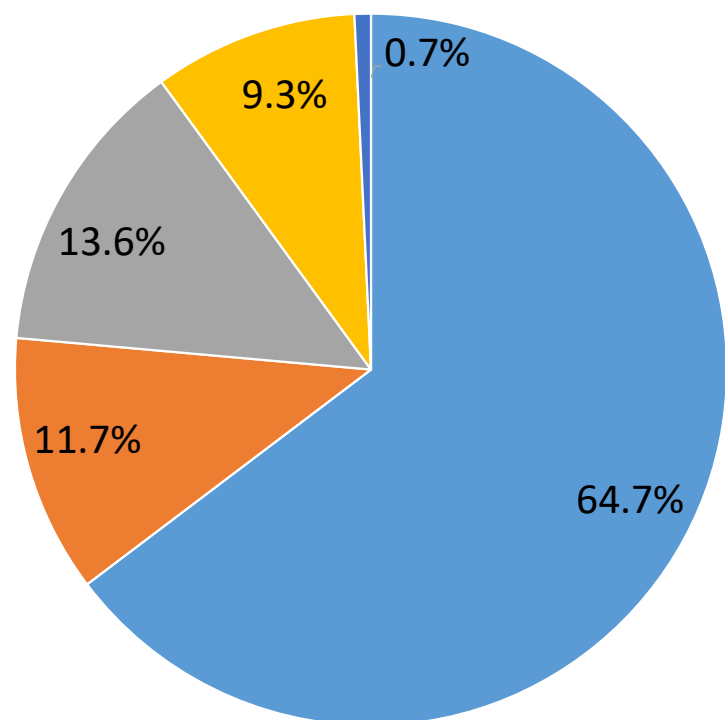
【回答】 2,291名（回答率68.0%）

【内容】 生徒の部活動に関する意識や休日移行後の二ーズ等を調査

(参考3-2) 教員・生徒向けアンケート調査結果（令和5年度）

令和5年度 教員向けアンケート調査から

◆部活動の活動日に関する負担について

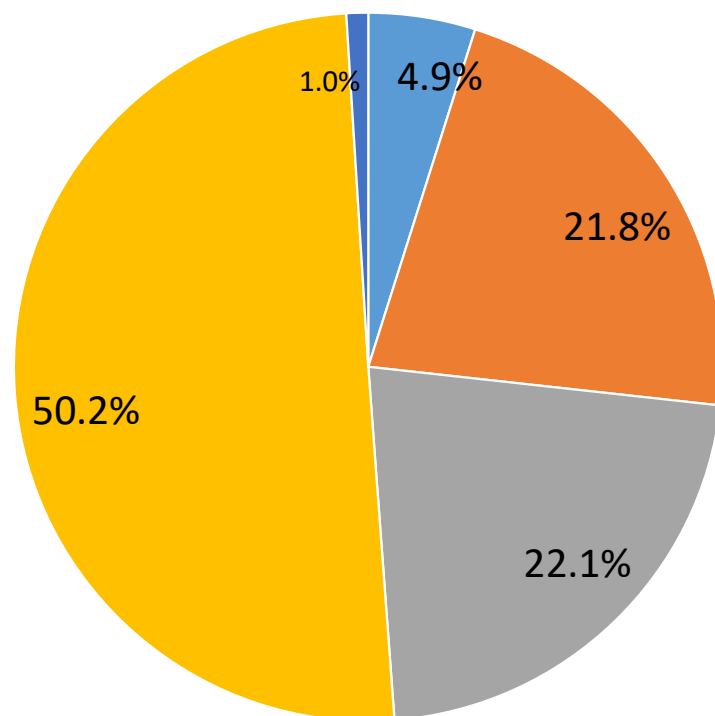


- 平日休日ともに負担感は大い
- 休日の負担感は大い、平日の負担感は小
- 平日休日ともに負担感は小
- 負担感に関してはわからない
- 無回答

(参考3-3) 教員・生徒向けアンケート調査結果（令和5年度）

令和5年度 教員向けアンケート調査から

◆現在地域クラブと関わりはないが、地域移行後、休日の指導者として関わる意向はあるか



- 地域指導者として積極的に関わりたい
- できる範囲で地域指導者として関わりたい
- できれば関わりたいくない
- 関わらない
- 無回答

(参考3-4) 教員・生徒向けアンケート調査結果（令和5年度）

令和5年度 教員向けアンケート調査から

- ・ **7割以上の教員**が活動日（平日・休日）や専門性の有無に関わらず**負担が大きい**と感じ、地域移行後は休日指導を望んでいない一方で、**約3割の教員は、今後も休日に指導者として関わる意向**。



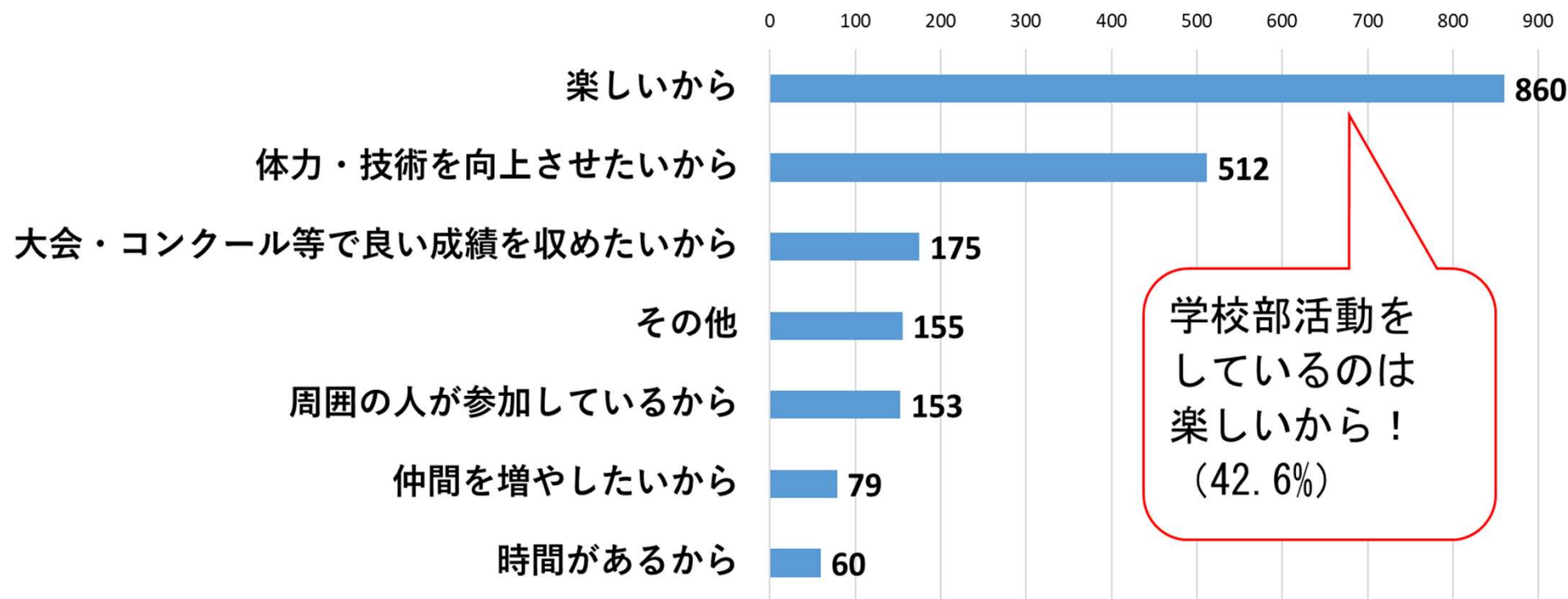
- ・ **教員の負担軽減**を進めることが必要であると同時に、今後、地域指導者として関わる意向のある教員についても地域クラブに関わることができるよう、**兼職兼業の考え方や要件等を整理**することが必要。

(参考3-5) 教員・生徒向けアンケート調査結果（令和5年度）

令和5年度 生徒向けアンケート調査から

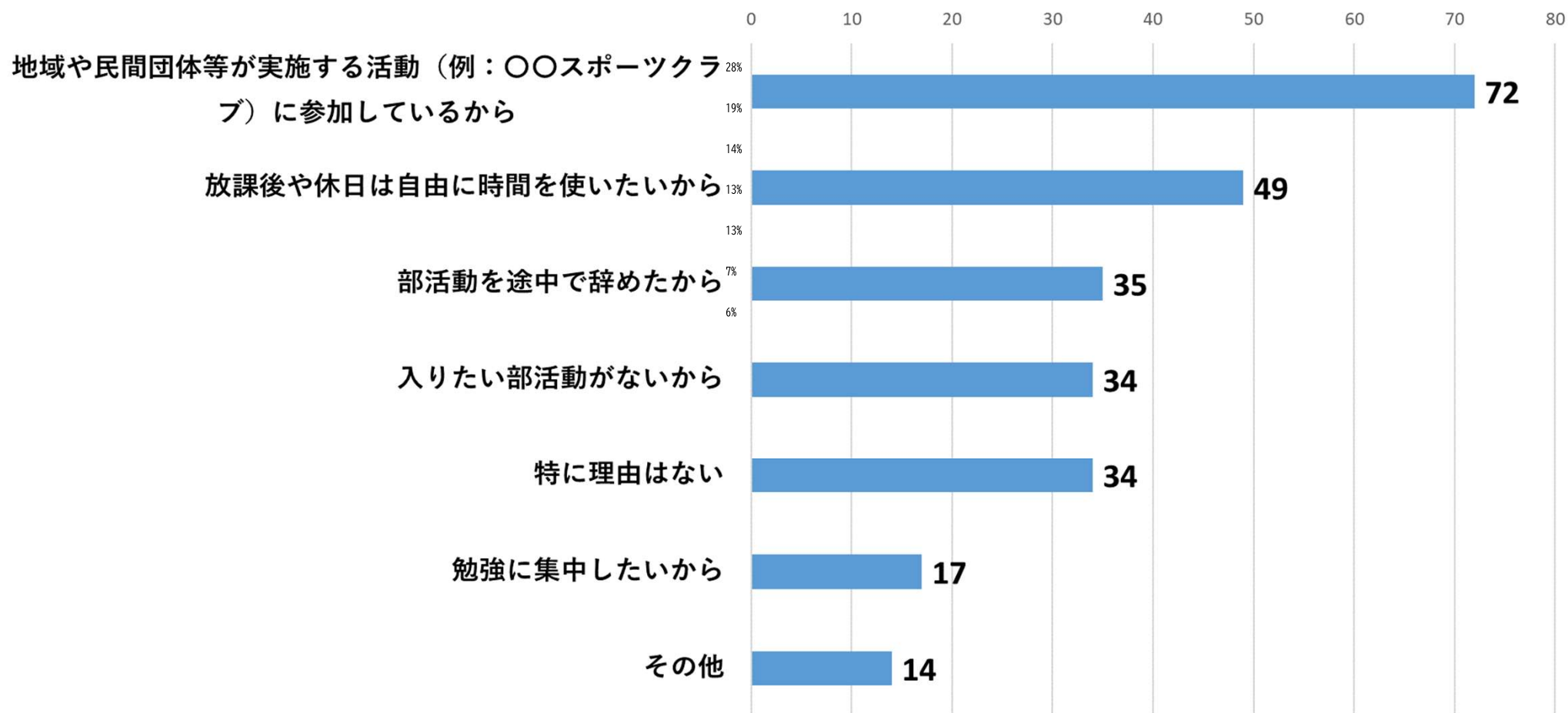
学校の部活動に入部した理由（2,017人）

無回答者23人は非掲載



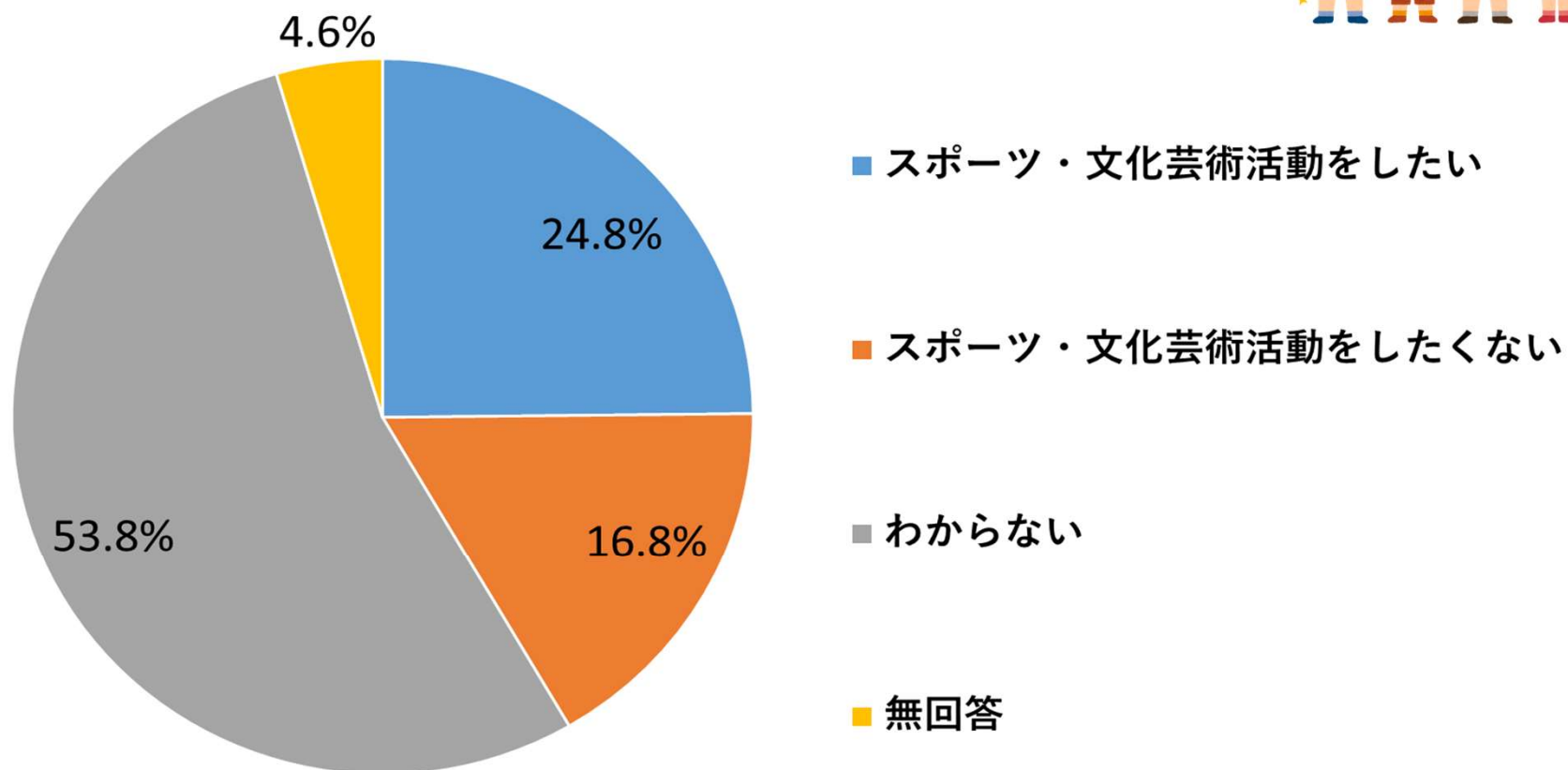
(参考3-6) 教員・生徒向けアンケート調査結果（令和5年度）

学校の部活動に入部していない理由（255人）



(参考3-7) 教員・生徒向けアンケート調査結果（令和5年度）

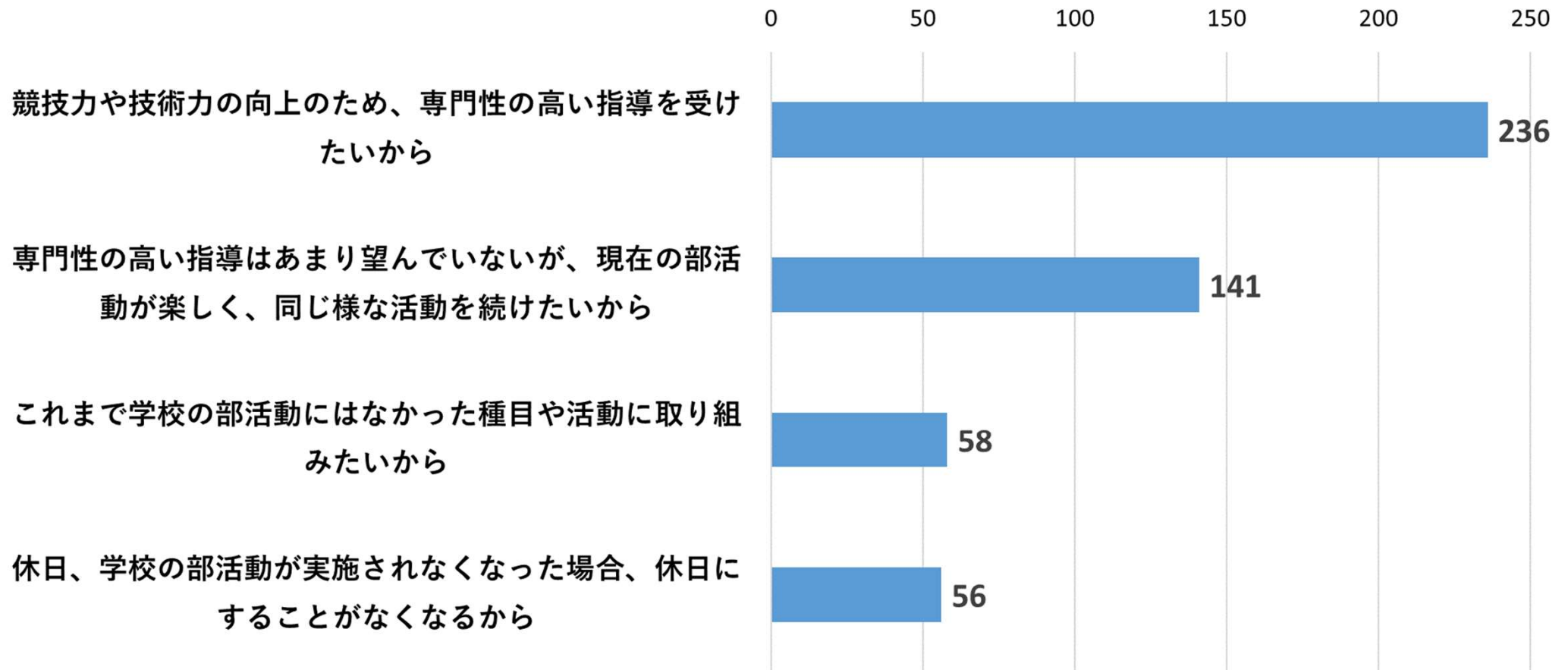
令和5年度 生徒向けアンケート調査から
◆地域移行後の地域クラブ活動への参加



（参考3-8）教員・生徒向けアンケート調査結果（令和5年度）

令和5年度 生徒向けアンケート調査から

地域移行後、休日に地域クラブで活動したいと考えた理由（主な回答）



(参考3-9) 教員・生徒向けアンケート調査結果（令和5年度）

令和5年度 生徒向けアンケート調査から

- ・ 地域クラブを希望する生徒の中には、**専門的な指導を受けたい生徒**がいる（41%）一方、専門性よりも**楽しさを求める生徒**もあり（25%）、生徒の意向も多様であるため、「レクレーション志向」や「競技志向」等、**子どもの多様な志向に対応できる仕組みづくり**が必要。



- ・ **休日に部活動が実施されなくなった場合**、新たに地域クラブ活動をするかどうかを問う質問で「**わからない**」及び「**無回答**」が**全体の6割**を占めており、多くの生徒は、地域クラブ活動の将来像についてイメージができていない。わかりやすく、丁寧に伝えていくことが必要。